

自然災害の歴史から見るわがまち北区

北区の土地の成り立ち

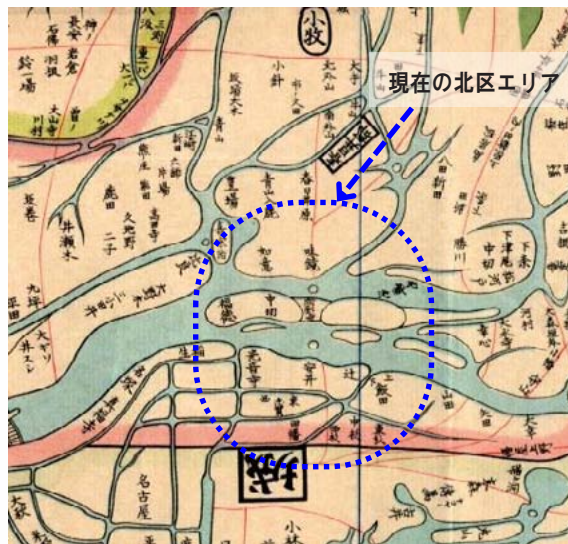
北区の地形

北区は名古屋台地の北側に接しており、河川が運んできた土砂が堆積してつくられた沖積平野にある。



江戸時代の尾張古地図

北区は昔から川の集まる場所であった。



北区の主な災害の歴史

主な地震年表

年代	地震	愛知県内被害等
1586 (天正 13)	天正地震	震度 7 死者 6,000
1707 (宝永 4)	宝永地震	震度 5 名古屋城被害
1854 (安政元)	安政東海地震 安政南海地震	震度 5 安政東海地震の32時間後に発生
1891 (明治 24)	濃尾地震	震度 7 死者 2,638
1944 (昭和 19)	東南海地震	震度 6 死者 438
1945 (昭和 20)	三河地震	震度 7 死者 2,306

主な風水害年表

※床上：床上浸水戸数、床下：床下浸水戸数

年代	風水害	北区の主な被害
1757 (宝暦 7)	庄内川/八田川	味鋺破堤
1779 (安永 8)	庄内川	味鋺破堤
1782 (天明 2)	庄内川	年4回の水害
1830 (天保元)	庄内川	辻村破堤
1855 (安政 2)	庄内川/矢田川	前年地震で堤防未修理の所あり味鋺破堤等被害大
1868 (明治元)	矢田川	味鋺・成願寺等破堤
1896 (明治 29)	庄内川/矢田川	福德・味鋺破堤
1911 (明治 44)	庄内川/矢田川	福德破堤
1959 (昭和 34)	伊勢湾台風	負傷者 275、全壊 101
1971 (昭和 46)	台風 23 号	床上 41、床下 856
1976 (昭和 51)	台風 17 号	床上 349、床下 6,172
1982 (昭和 57)	集中豪雨	床上 92、床下 2,846
1991 (平成 3)	台風 18 号	床上 484、床下 1,745
2000 (平成 12)	東海豪雨	負傷者 2 床上 2,221、床下 1,172
2008 (平成 20)	8 月末豪雨	床上 109、床下 1,290
2011 (平成 23)	台風 15 号	負傷者 1、床上 2、床下 12
2013 (平成 25)	集中豪雨	床上 27、床下 598

コラム：安政東海地震（1854 年）時の矢田川

昔の人の記録にも被害の程度を示すものがある。江戸時代末期の武士、奥村徳義著の「松濤棹筆（しょうとうしゅうひつ）」には次のような記述がみられる。

「大地震の日である。成願寺村の前の矢田川は、冬は水が流れていない。仮橋が架かっているが、川は砂地になって、歩いて渡ることができる。ところが大地震があって、川幅いっぱい水が満ちて流れている。堤防は中ほどで決壊した。濁った水が湧き出て、流れている。高く立っていた仮橋の橋杭は川底へ引込んでしまった。」（現代語訳）



安永 8 年洪水の図

（名古屋博物館からの情報提供）

大雨により庄内川が氾濫し、味鋺、比良、大野木辺りで堤防が決壊した。これにより、一面泥の海になり民家や田畑が水没した。

主な水害対策の歴史

江戸期の水害対策

御冥加自普請(ごみょうがじぶしん)

天明3年(1783)秋、大雨により庄内川が氾濫、堤防が決壊しかけたが、藩主宗睦(むねちか)が熱田神宮へ祈願した所晴天になった。これに感謝した住民により浚渫(しゅんせつ)と築堤が行われた(北区は1784年成願寺で工事)。高力猿猴庵(こうりきえんこうあん)著の「金明録」に「成願寺の後ろ川堤を取払ひて大川に成、諸人群集し土砂を運ぶ。数万の人、一組づゝ(後略)」とある。

右図は、庄内川の両岸で数万人の人が壊れた堤防を修復する工事の様子。



御冥加自普請之図(市博物館所蔵)

昭和の矢田川河川付替工事

1930~1932年(昭和5~7年)に庄内川の流路に沿って矢田川を付け替える改修工事を行った。この工事により、それまで度重なる水害に悩まされてきた川中村は地続きとなり、河川の氾濫による被害が大きく軽減された。

※かつての矢田川は天井川(周辺の土地より川の河床が高い)であり、現在でもこの地域だけ、周辺よりやや高く、かつての名残を残す。



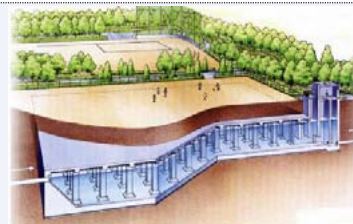
旧の堤防の上に建っている天神社



上段: 大正9年国土地理院地形図「日本図誌体系」
下段: 国土地理院電子地形図25000

東海豪雨以降の対策

平成12年の東海豪雨や平成20年8月末豪雨等を受けて策定した整備計画に基づき、著しい浸水被害が集中した地域や都市機能の集積する地域を対象として、原則1時間60ミリの降雨に対応する施設整備へレベルアップする緊急雨水整備事業を進めています。この施設整備により、東海豪雨時に名古屋地方気象台で記録した過去最大の1時間降雨量97ミリの降雨に対して、床上浸水の概ね解消を目指しています。



桶調節池

堀川左岸雨水調整池
工事中の写真



体験談

東海豪雨の話

楠西学区在住の林さん

当日は、朝から大雨の予報で雨脚が強くなった午後に住民の方から「水がでた」という連絡を受けて現場に駆け付けると、膝まで浸水していたため、避難所を立ち上げようとしていました。小学校も既に胸まで浸水していたため、昔の大山川の堤防に建ち、他より高い場所のコミュニティセンターを避難所としました。その後、消防団に見回りと避難広報を依頼し、避難できない人は自宅の2階に避難するようにしました。民生委員等の協力により何とか独居高齢者の無事を確認しました。夕方にはコミュニティセンターに300人ほど避難しましたが、横になれるのは50~60人で、周辺の農協や神社にも分散しました。早め早めの行動と避難の大切さ、地域での名簿づくりや近所付き合いがいざという時の助けになると感じました。

東南海地震の話

杉村学区在住のIさん（発災当時16歳）

当時私は三菱金属工業（現在の三菱電機株）名古屋製作所（大曽根）で働いていました。地震発生時は仕事で、大きな揺れに驚いて皆屋外へ逃げ出しました。工場の建物は2階建て位の高さがあって大きく揺れていましたが倒壊はしませんでした。戦時中のためか地震の報道は全くありませんでした。

※昭和19年12月7日に発生した地震で、名古屋市内の震度は概ね5~6



安井村庄内川堤防大崩



三階橋堤防破壊



大曽根坂下家屋崩壊



名古屋清水町

資料：濃尾大震災(1891)写真帳

濃尾地震

明治24年10月28日に岐阜県美濃地方を震源として発生し、日本の内陸直下型地震としては最大規模の地震であった。

名古屋市域は、震度6~7と推定されている。

愛知県の被害：死者2,638人、住家全壊85,511棟



楠ジャンクション周辺



大我麻町



丸新町



落合町

東海豪雨

平成12年9月11日~12日にかけて、日本付近に停滞していた秋雨前線に台風14号からの暖かく湿った空気が流れ込み前線を刺激して記録的な大雨となった。市内河川では西部を流れる新川で破堤したほか、破堤3箇所、越水17箇所。市内の約37%が浸水し伊勢湾台風に次ぐ浸水被害となった。

北区の被害：負傷者2名、

床上浸水2,221棟、床下浸水1,172棟



辻栄橋周辺

伊勢湾台風

昭和34年9月26日に名古屋市に最接近した大型で非常に強力な台風で、伊勢湾を通過する際に高潮が発生しやすい状況であったことなども影響し、甚大な被害をもたらした。市域での死者・行方不明者は合わせて1851人にものぼった。北区の被害：死者0人、負傷者275人、全壊101棟

平成23年台風15号に伴う豪雨

平成23年9月19日~21日にかけて非常に強い勢力をもった台風15号が本州の前線を刺激、岐阜県多治見市を中心に記録的な大雨となり、庄内川で堤防を越水するなど浸水被害が発生した。

北区の被害：負傷者1名、床上浸水2棟、床下浸水12棟



八田川堤防斜面の崩壊

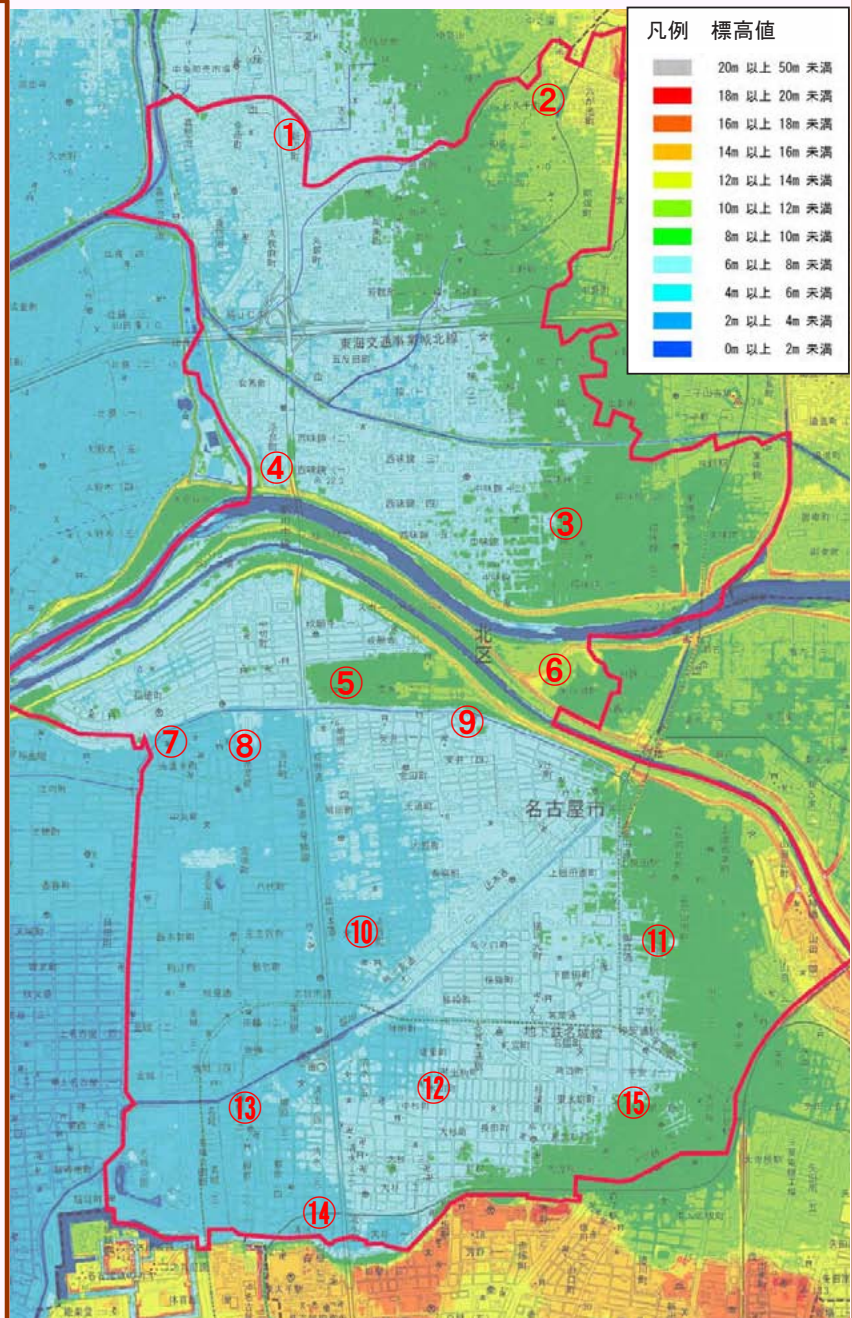
北区の町名と水の結びつき

北区は水に関連する町名が多い。

(主な町名と概ねの位置)

- ①新沼町 近年まで沼地であった所を新沼とよんだことから
- ②北久手町 かつて久手(湿地帯)であったことから
- ③味 鋤 「マ」は船着き場の意
- ④落合町 川の水がこのあたりで落ち合うという意
- ⑤川中町 庄内川と矢田川の堤防で囲まれていたことから
- ⑥米が瀬町 米が瀬は夜泣きの意。夜通しゴウゴウ鳴る庄内川の音が心配で寝ることもできなかったから
- ⑦櫛形町 かつて櫛型二重堤防があったことから
- ⑧水草町 芦の茂る大きな沼があったことから
- ⑨安井町 安井は用水が豊かという意
- ⑩志賀町 湿(し)き陸の略で湿地であったため
- ⑪八竜町 八龍神社があったことから龍は水の神
- ⑫水切町 大幸川の水をあぜ道を切り田に引いたことから
- ⑬柳 原 沼や沢の中にある台地に柳が多く茂っていたため
- ⑭清 水 台地の中腹で豊かに水が湧き出していたことから
- ⑮大曽根 海岸や河川の磯根、底根という意

※町名の由来は諸説あり



地図：国土地理院デジタル標高地形図

参考文献

愛知県河川整備計画(愛知県河川整備計画流域委員会)
 北区誌区政五十周年記念(北区政50周年記念事業実行委員会)
 北区歴史と文化探索トリップ(沢井鈴一 伊藤正博 北本日出夫)
 北区の歴史(愛知県郷土資料刊行会)、広報ぼうさいN0,36(内閣府政策統括官(防災担当))
 庄内川水害史(庄内川工事事務所)、東海豪雨水害に関する記録(名古屋市)、
 土木行政のあゆみ(名古屋市土木局)、名古屋市史(名古屋市)、
 名古屋市港区誌区政五十周年記念(港区制施行五十周年記念事業実行委員会)、
 なぜ?なぜ?BOX 川の水調査隊(公益財団法人河川財団)
 平成23年度～25年度愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査報告書(愛知県)、みずプラン27(名古屋市上下水道局)
 歴史災害から見る名古屋〔江戸時代〕(名古屋市防災危機管理局統括課)

発行年 平成29年3月

発行者 名古屋市北区清水四丁目17番1号
 名古屋市北区役所総務課
 TEL 052-917-6414

監修 名古屋大学名誉教授 溝口常俊

協力 堀川文化探索隊 伊藤正博
 名古屋きた災害ボランティアネットワーク
 愛知県尾張建設事務所
 名古屋市北図書館